

# グラフで見る関西経済(2021年8月)

2021年8月27日

調査部 主任研究員 塚田 裕昭

## 今月の景気判断 ~新型コロナの影響で厳しい状況にあるが、持ち直している

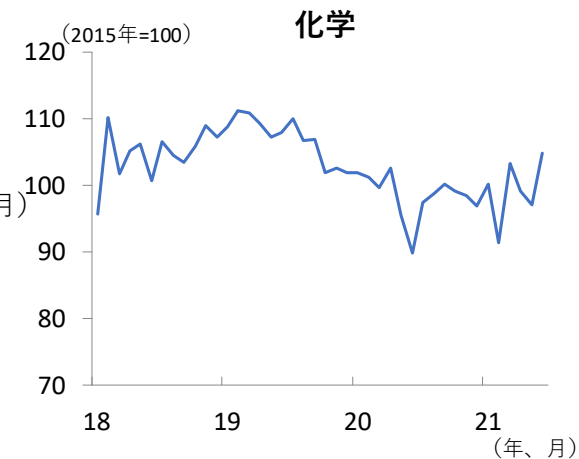
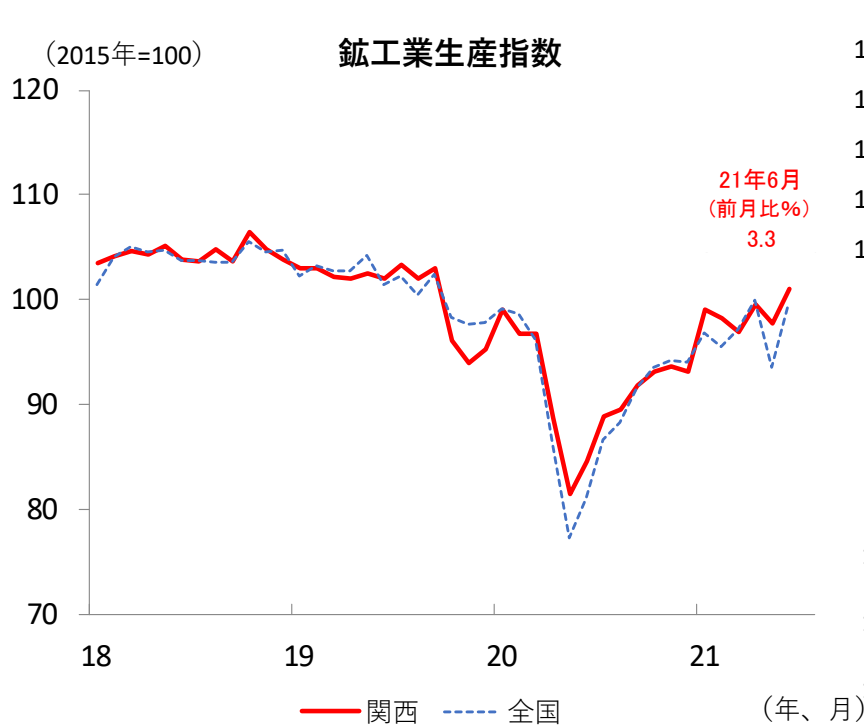
### 【今月のポイント】

- 生産(6月)は2ヶ月ぶりに増加。電子部品デバイス、化学などが増加した。先行きは半導体不足による加工・組立業種の下振れのリスクがあるが、基調としては持ち直しが続くと思われる。
- 実質輸出(7月)は2ヶ月ぶりに前月比で減少。化学、一般機械などが前月比で減少したことが影響したが、増加基調は続いているとみられる。
- 財の消費を示す小売売上は、総じて弱含み。家電売上は2ヶ月連続で前年比2桁減。緊急事態宣言による人流の抑制や、前年の定額給付金効果のはく落が影響した。

項目	現状
景気全般	新型コロナの影響で厳しい状況にあるが、持ち直している
生産	持ち直している
輸出	増加している
設備投資	持ち直しの動きが見られる
雇用	弱い動きとなっている
賃金	減少している
個人消費	弱い動きがみられる
住宅投資	持ち直しの動きが見られる
公共投資	横ばい圏で推移している

# 生産

6月の鉱工業生産（関西）は前月比+3.3%と2ヶ月ぶりに増加した。化学、電子部品デバイスなどが増加した。先行きについては、半導体不足などの影響で加工・組立業種などで下振れるリスクがあるが、基調としては持ち直しが続くと思われる。

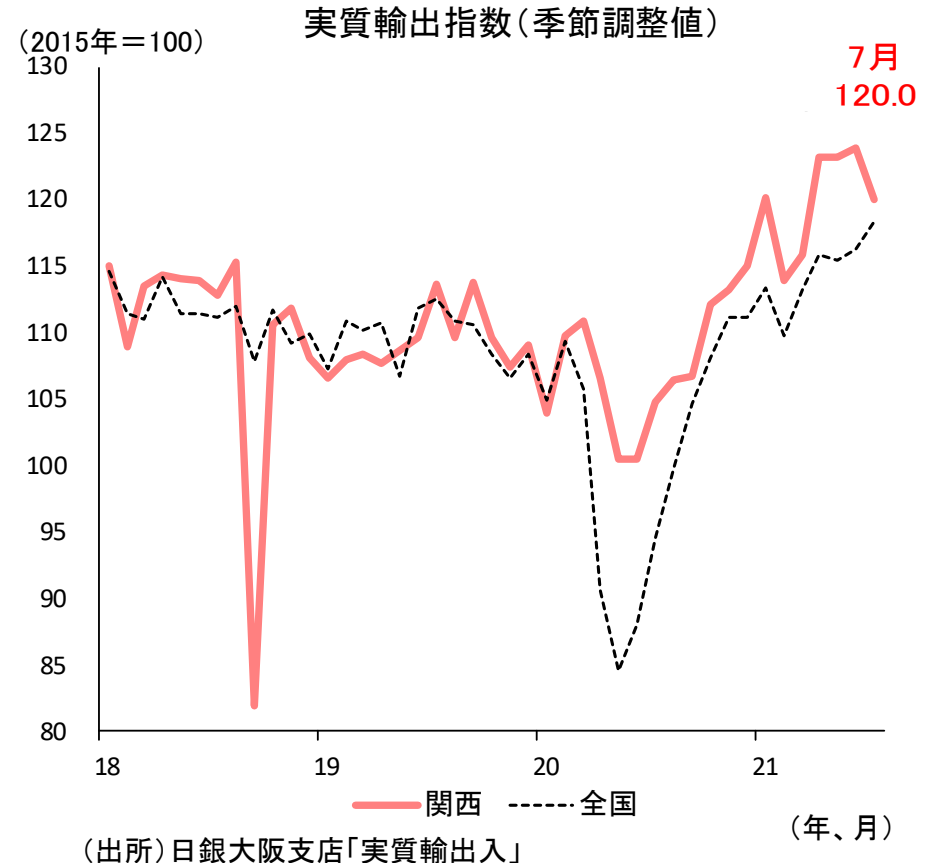
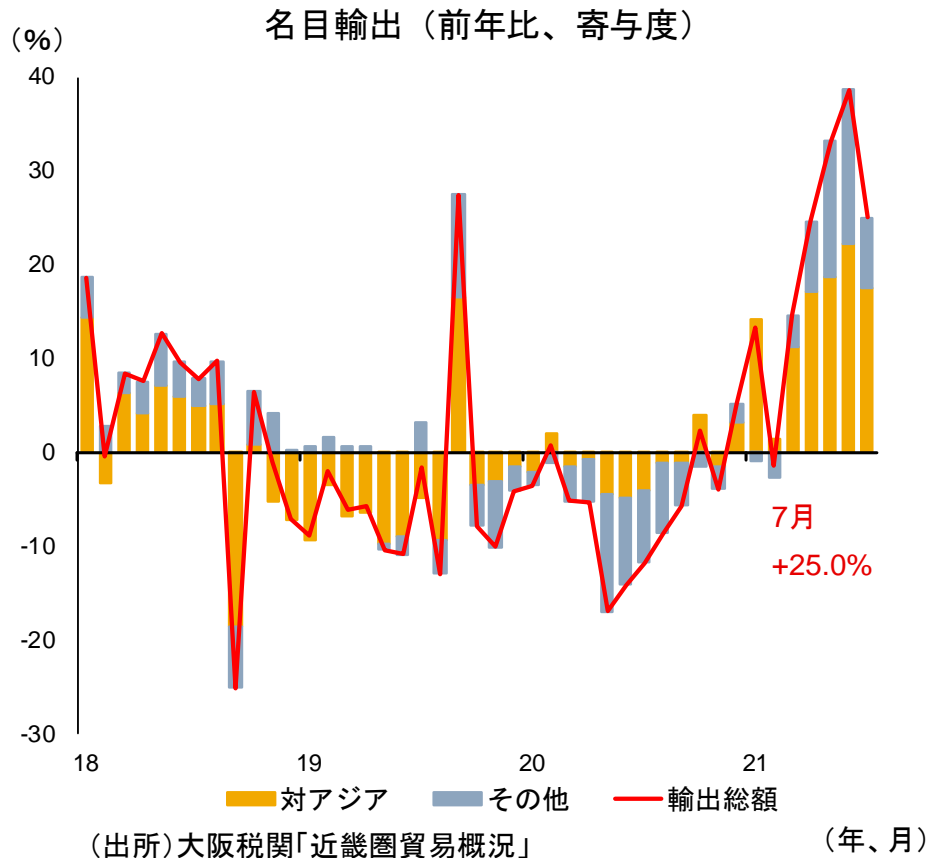


(出所) 経済産業省「鉱工業生産動向」

# 輸出

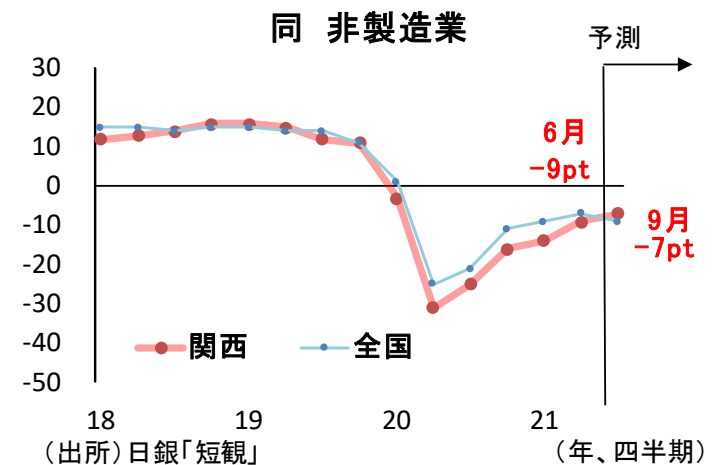
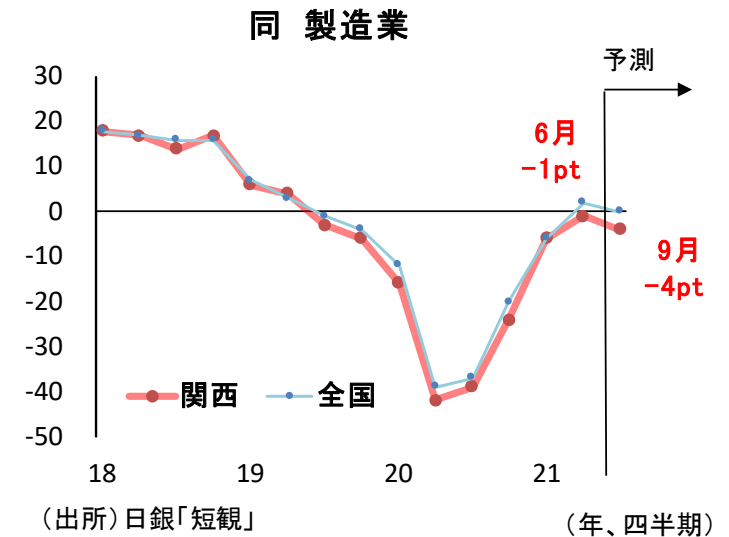
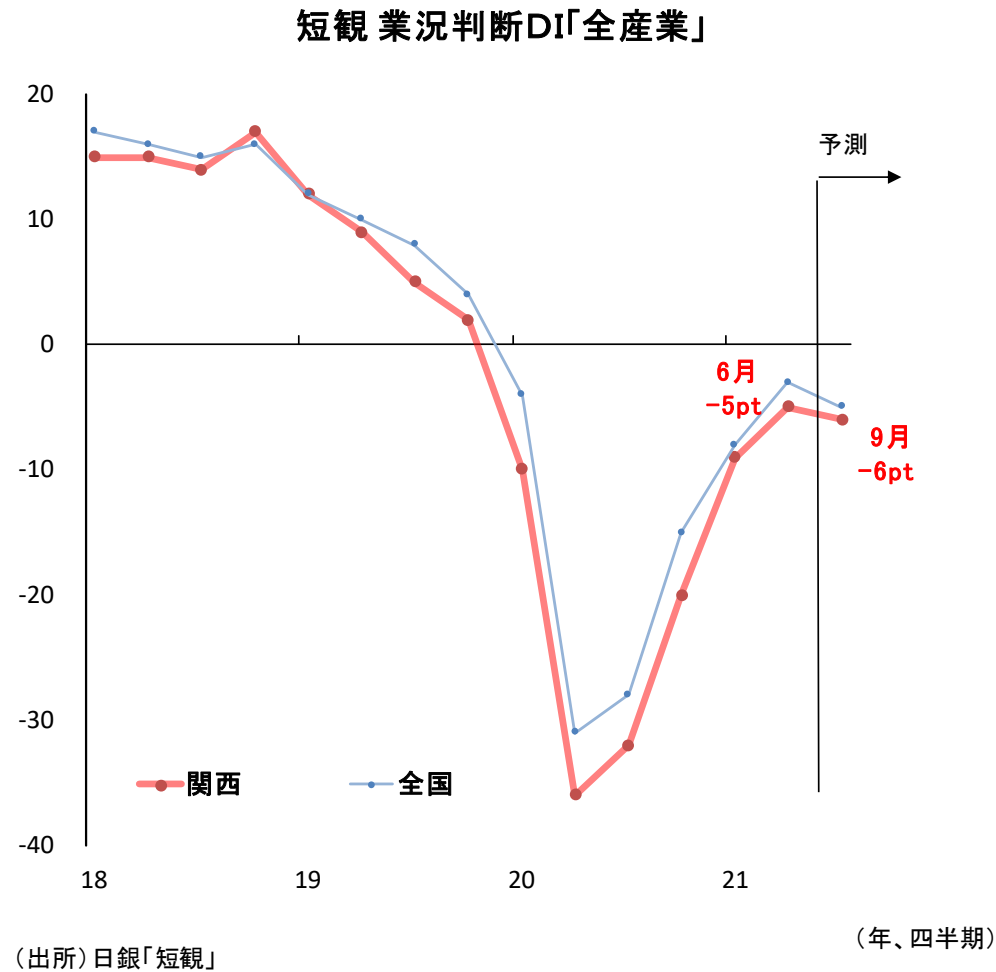
7月の名目輸出額は前年比+25.0%と5ヶ月連続で増加。地域別では、アジア、米国、EU、その他いずれれも増加した。品目別では、半導体等電子部品、建設用・鉱山用機械などが大幅に増加した。

7月の実質輸出(季節調整値)は前月比-3.2%と2ヶ月ぶりに減少。一般機械、化学製品などが前月比で減少したことにより単月では減少となったが、増加基調は続いていると考えられる。



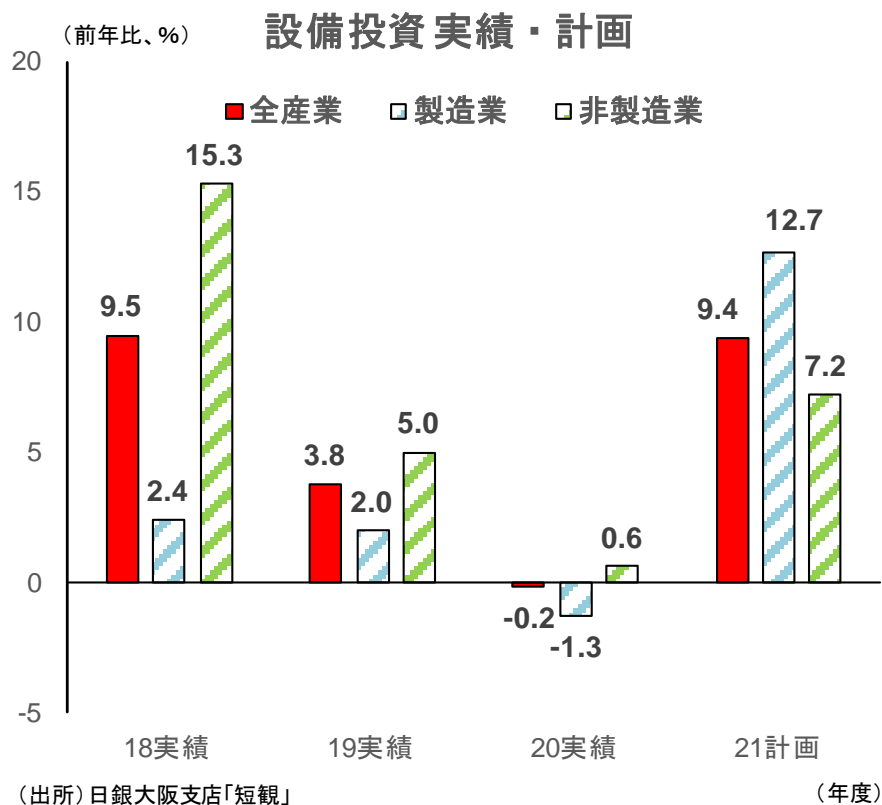
# 企業景況感(日銀短観) ※以下は7/1公表の6月調査。9月調査は10/1公表予定

日銀短観6月調査の業況判断DIは全産業で-5ptと3月調査から改善。製造業は-1pt、非製造業は-9pt。先行き(9月)については、全産業、製造業は悪化、非製造業は改善が見込まれている。



## 設備投資※以下は7/1公表の6月調査。9月調査は10/1公表予定

日銀短観6月調査によると、21年度の設備投資(計画)は前年比+9.4%と増加が見込まれている。3月調査時と比べて、製造業、非製造業、全産業いずれも上方修正となった。業種別では製造業は鉄鋼業以外は増加、非製造業は小売り、対事業所サービス以外は増加の計画となっている。



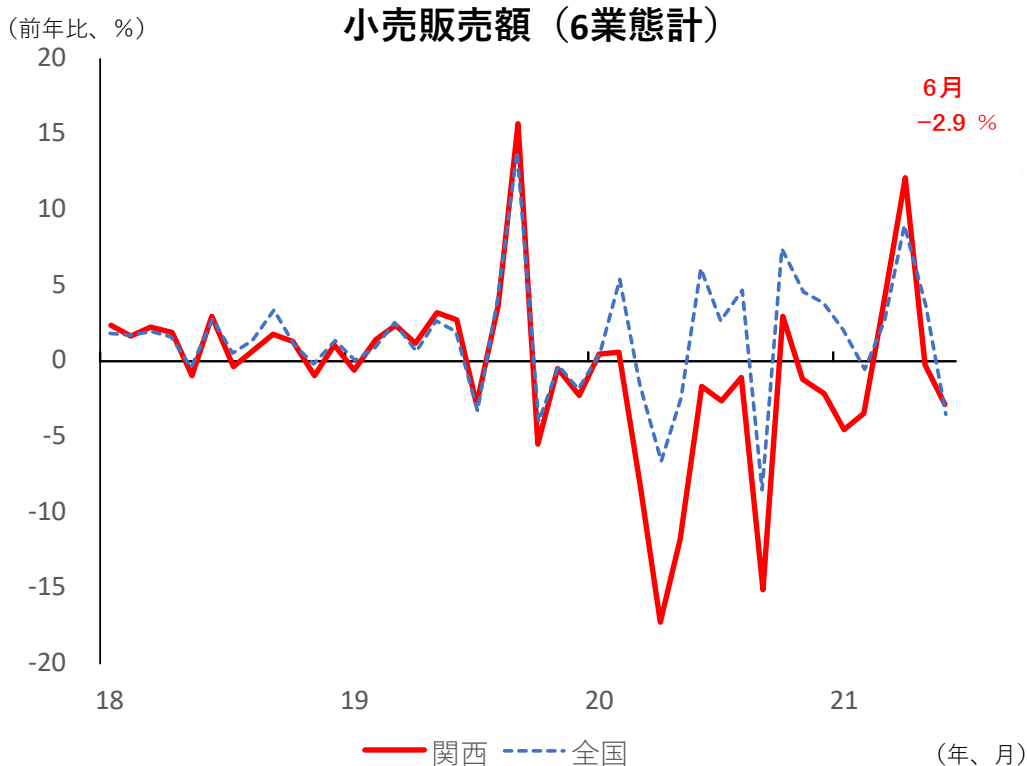
**設備投資額(前年比%)**

	20年度実績	21年度計画	
		今回	3月調査時 [差異]
全産業	-0.2	9.4	-0.2 9.6
製造業	-1.3	12.7	3.3 9.4
非製造業	0.6	7.2	-2.6 9.8

# 個人消費(小売売上、自動車販売)

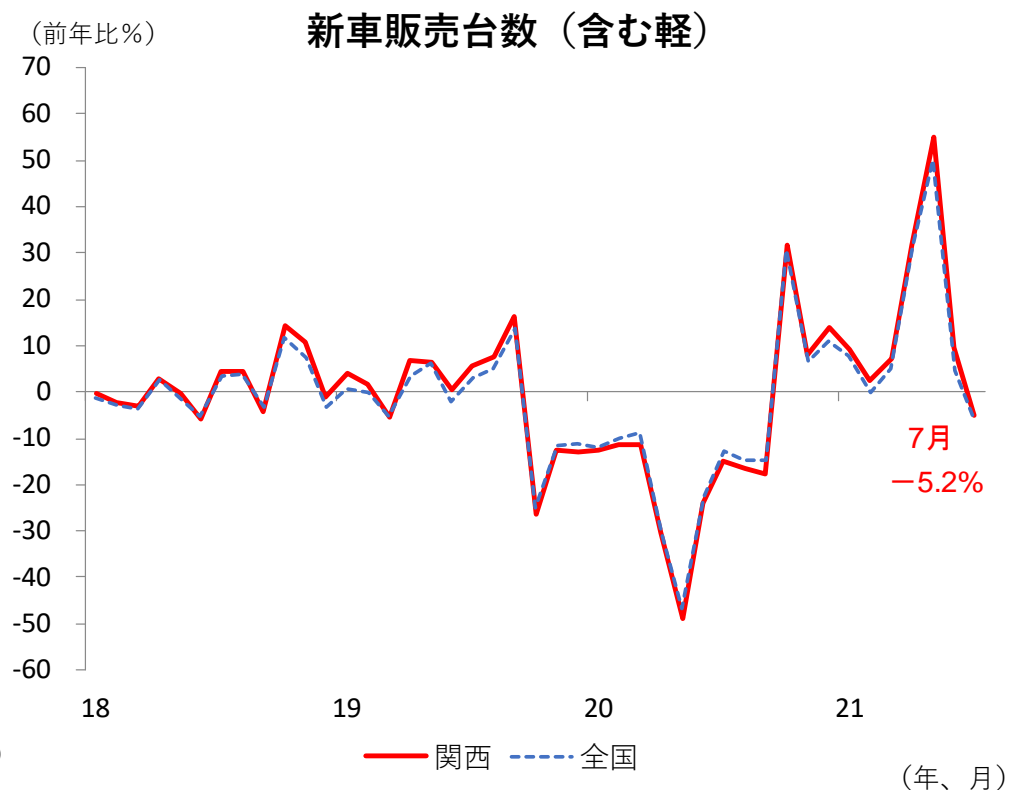
6月の小売販売額は、前年比-2.9%と2ヶ月連続で減少(一昨年比では-4.5%)した。

7月の新車販売は、半導体の供給不足による生産調整もあって、前年比-5.2%と10ヶ月ぶりに減少。一昨年比でも-19.5%と弱含んでいる。



(出所) 経済産業省「商業動態統計」

(注) 百貨店、スーパー、コンビニ、ドラッグストア、家電量販店、ホームセンターの合計



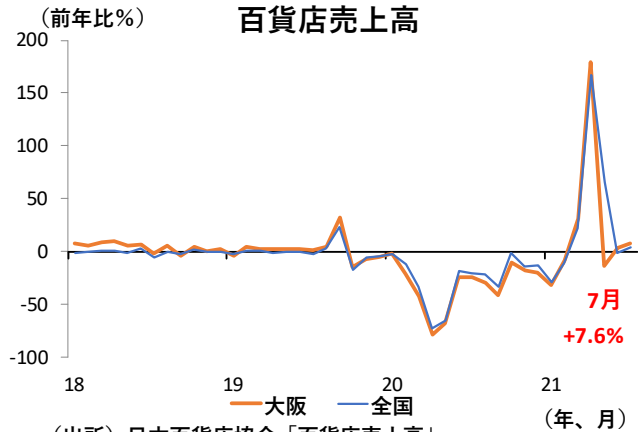
(出所) 日本自動車販売協会連合会「新車販売台数状況」

全国軽自動車協会連合会「軽四輪車新車販売」

# 個人消費(業態別)

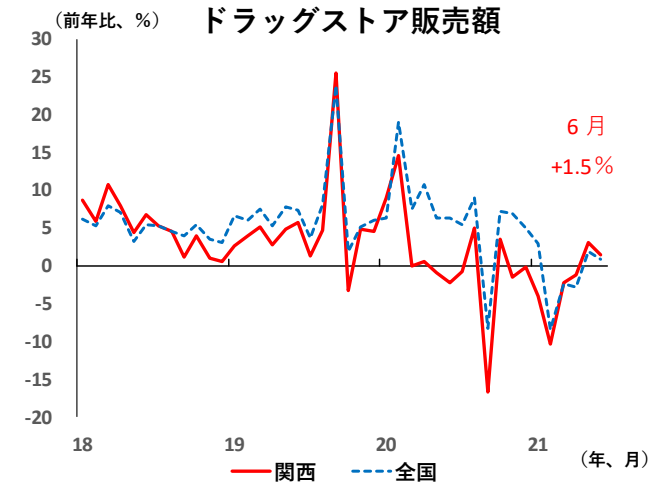
7月の百貨店売上(大阪)は前年比+7.6%と2ヶ月連続で増加したが(京阪神免税売上は同+63.2%)、一昨年比では大幅減(-19.1%)が続いており、基調は弱い。

6月の家電は前年の水準が高かったことと緊急事態宣言下の外出控えで2ヶ月連続で減少した。

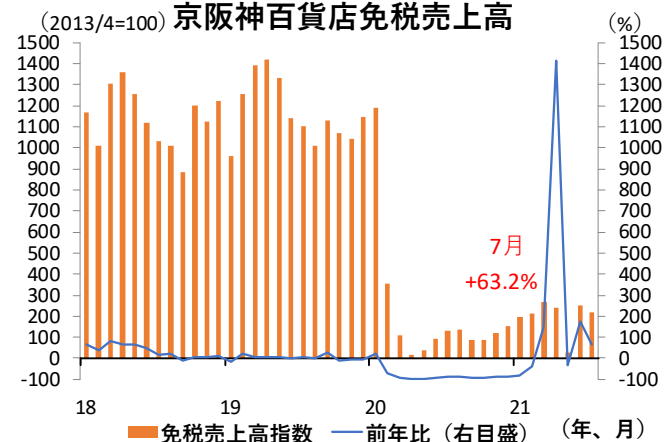


(出所) 日本百貨店協会「百貨店売上高」

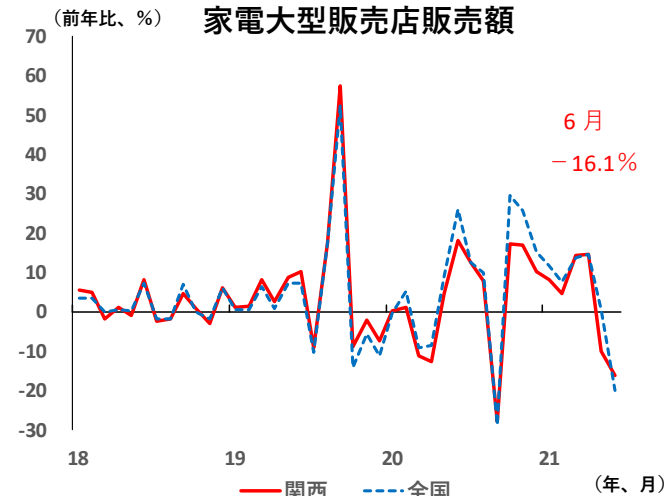
(注) 店舗調整後前年比



(出所) 経済産業省「商業動態統計」



(出所) 日銀大阪支店「百貨店免税売上(関西)」



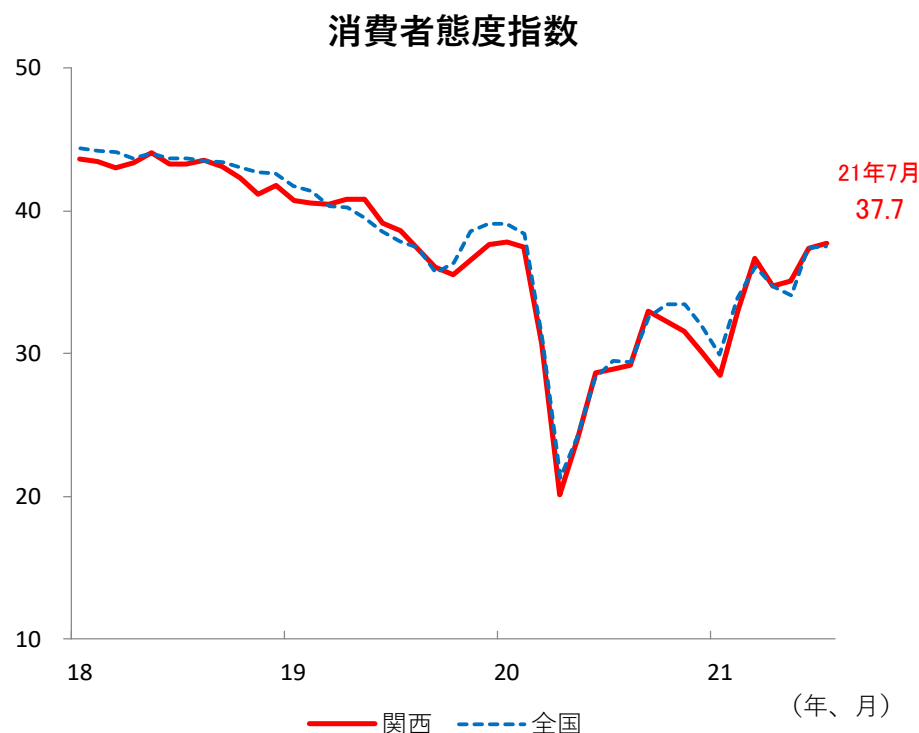
(出所) 経済産業省「商業動態統計」



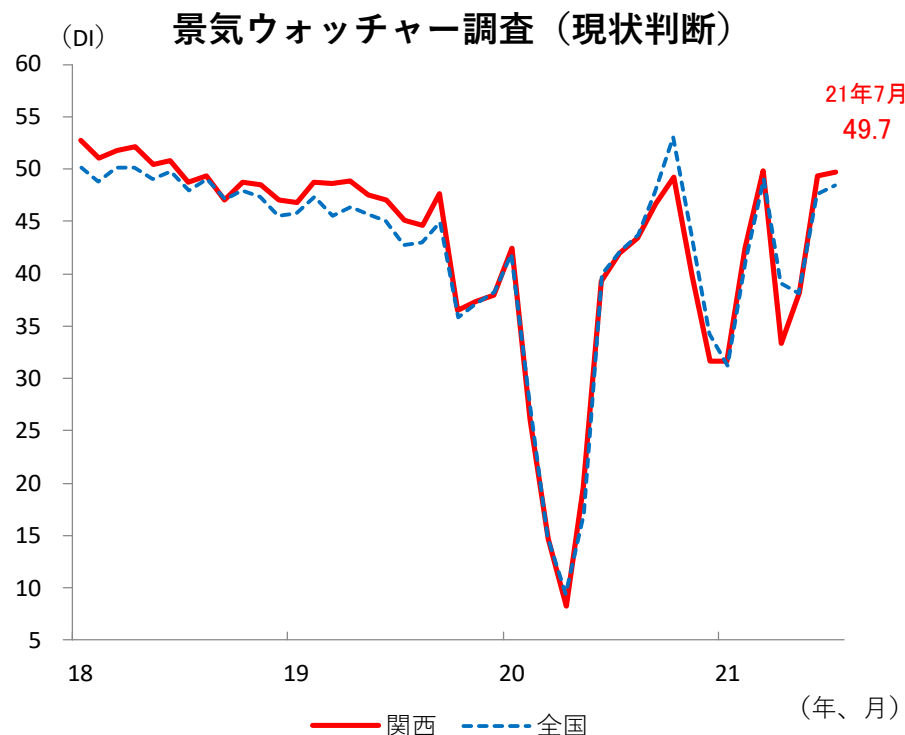
# マインド・景況感

7月の消費者態度指数(季節調整値)は37.7と3ヶ月連続で上昇した。

7月の景気ウォッチャー調査(現状判断DI)は、前月差+0.4ポイントの49.7と小幅ながら3ヶ月連続で上昇した。ワクチン接種、オリンピック開催などがプラスに寄与した。先行きについては、新型コロナウイルス感染再拡大による悪化が懸念されている。



(注)関西の季節調整値はMURC試算  
(出所)内閣府「消費動向調査」



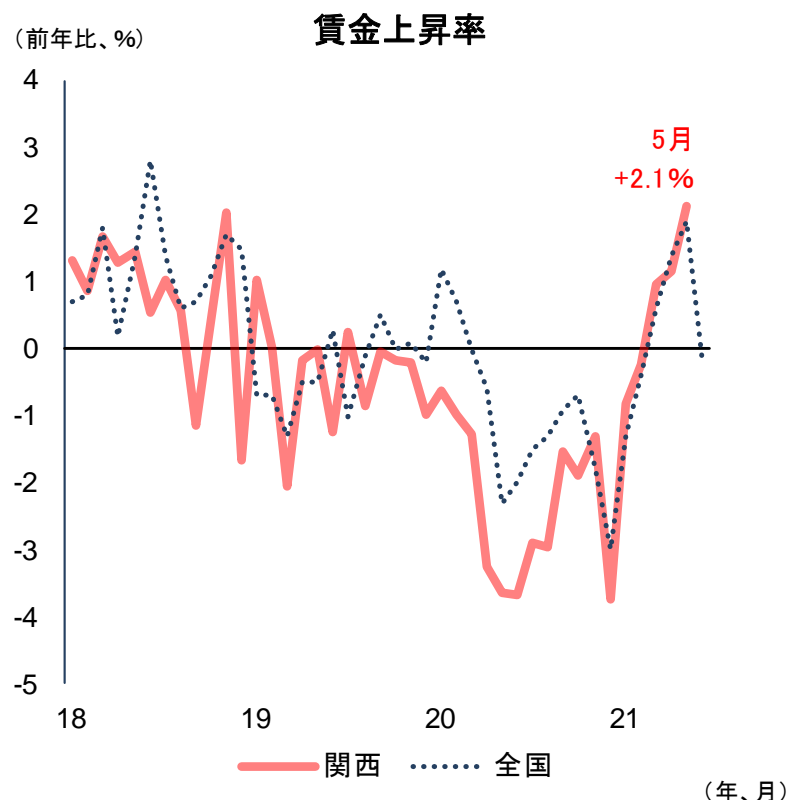
(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」

# 賃金・雇用

5月の名目賃金指数は、前年比+2.1%と3ヶ月連続で増加したが、一昨年比では-1.6%と減少している。

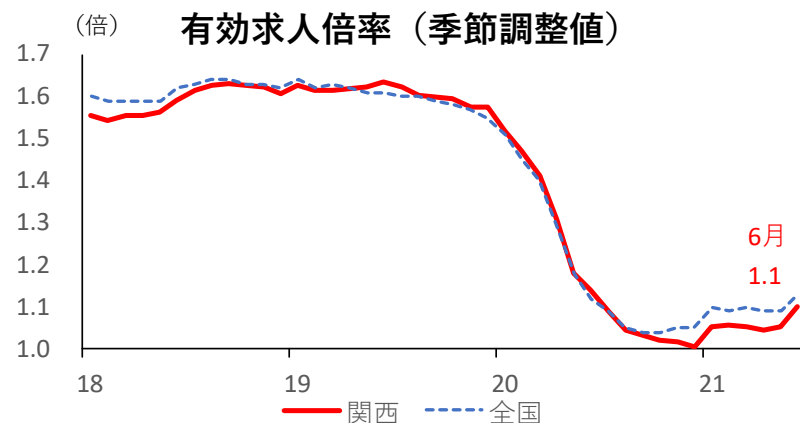
6月の有効求人倍率は1.1倍と前月(1.05)から小幅上昇。

21年4-6月期の失業率は3.2%と前期から横ばい。就業者数は減少した。

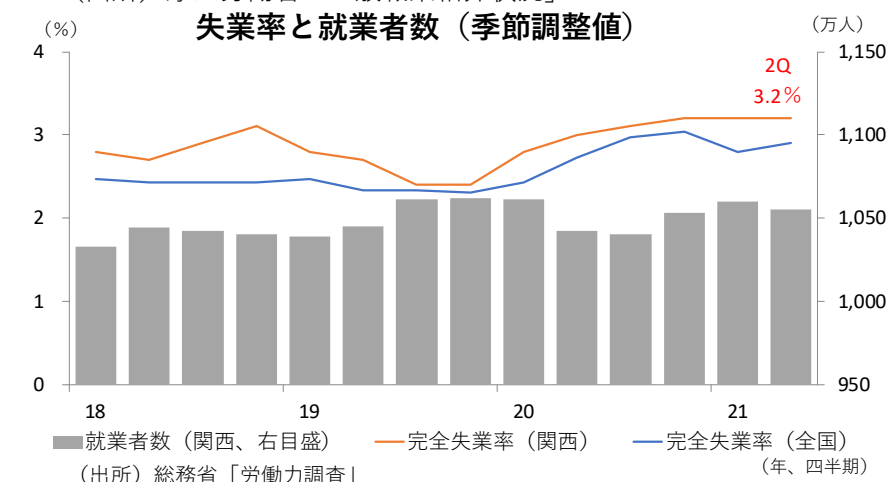


(注) 関西2府4県の名目賃金指数を常用労働者数で按分し合成したもの、MURC試算

(出所) 厚生労働省、各県「毎月勤労統計」

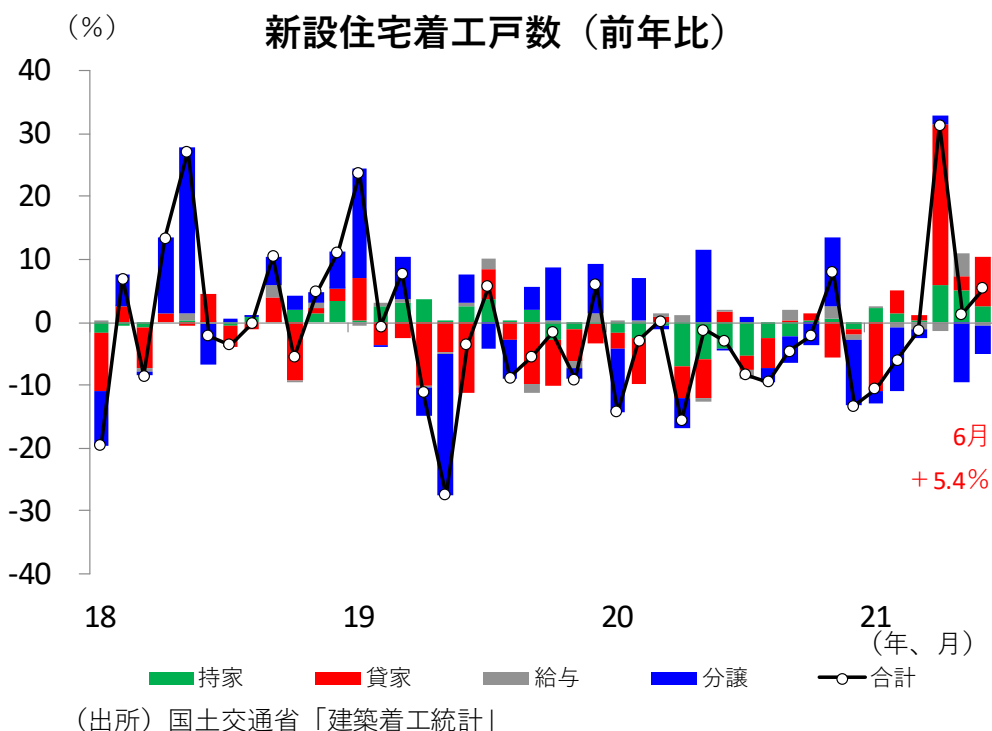
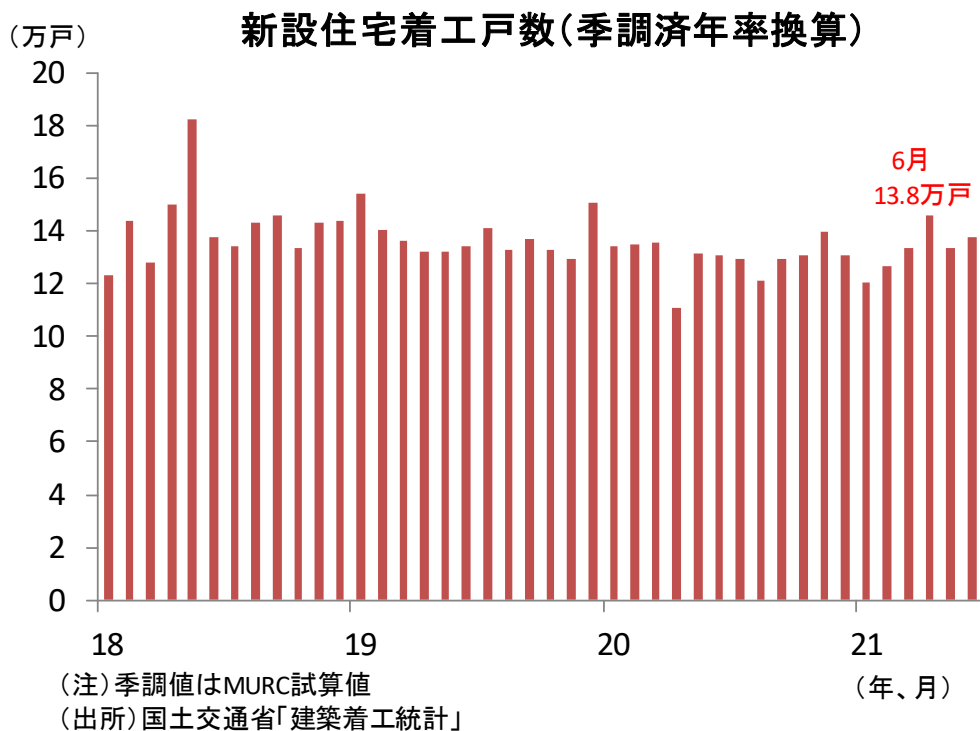


(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」



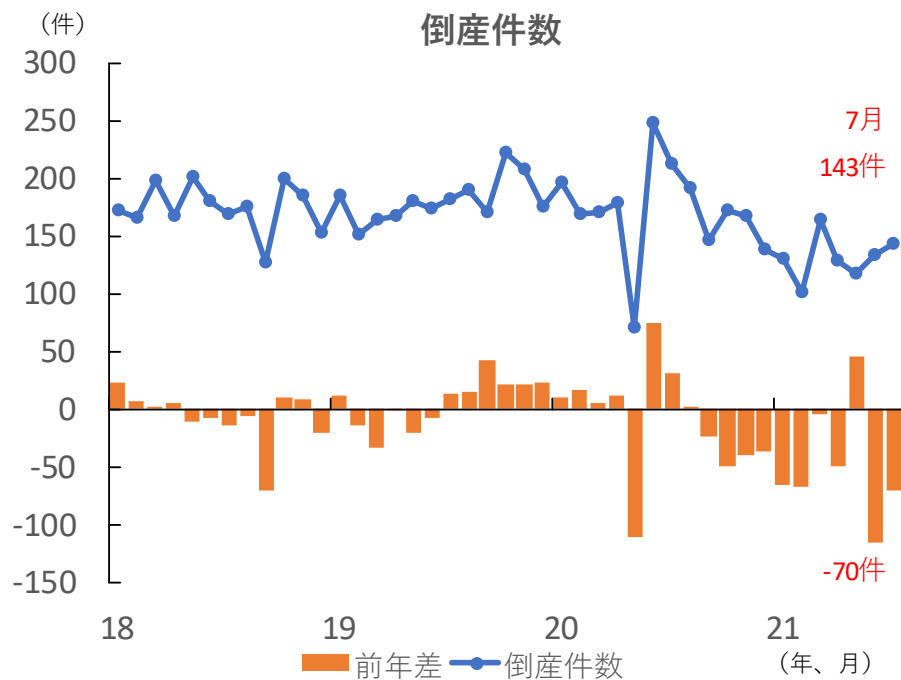
# 住宅投資

6月の住宅着工は季調・年率13.8万戸、前年比では+5.4%となった。分譲マンションが減少したが、持家、貸家が増加した。



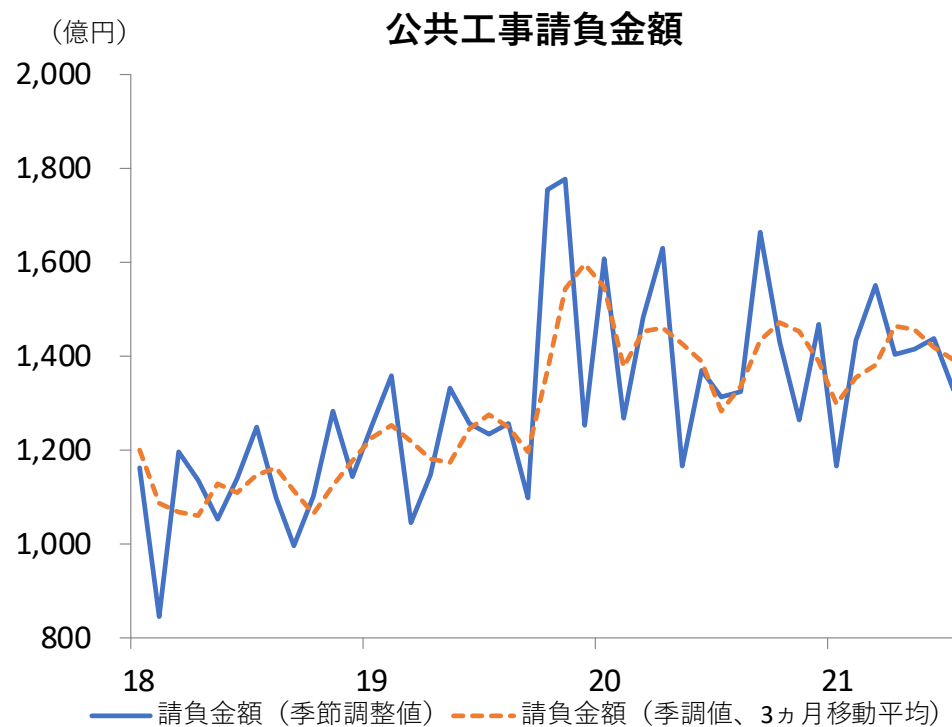
# 倒産

7月の倒産件数は143件と前年を下回り、低水準で推移している。



# 公共投資

公共投資は均してみると横ばい圏で推移している。



ご利用に際してのご留意事項を記載していますので、ご参照ください。

(お問い合わせ)調査部 塚田 TEL:03-6733-1626 E-mail:[chosa-report@murc.jp](mailto:chosa-report@murc.jp)

〒105-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー

－ ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください